

まごころ通信

教 育 長 コ ラ ム

『スピード感』を持って

仕事をするということ

一般企業に勤めていた時のこと。仕事は拙足にではなく、とにかく早くやることを求められました。初めはなぜそんなに急ぐのか理解ができませんでしたが、企画書がある企業に提出する仕事でその意味が理解できました。

提出期日まで1カ月、30日間の日数があります。会社からは20日で仕上げ、提出するようにとの指示。10日も早い提出期日ですが、この10日間が相手企業に対する信頼を勝ち取ることに become と言います。2～3日前に提出したのでは、相手企業の信頼はおろか、内容も稚拙なものだと捉えられてしまうということです。相手企業の信頼を得ることは、会社の利益につながります。『スピード感』を持った仕事をするとは、相手の信用を勝ち取ることであり、今後の取引にも大きな影響を及ぼすことにもなると指導されました。

また、10日早く仕上げるために、担当者は依頼を受けた日から5日間で大まかな原案を作成するよう指示されました。そのためには、まず担当者と同僚とで相手企業のニーズに対するヒアリングを行い、知恵を出し合います。できた原案を再検討し、10日で仕上げて上司に報告します。上司の意見を聞き、15日で仕上げたものを再度上司と検討し、20日で仕上げるという手順で完成させます。

ここで重要なことは、原案を考えるのは担当者ですが、

◎仲間と共に知恵を出し合うこと（協働）

（まごころ通信第26号参照）

◎大まかな考え方については、予め上司の許可を取って進めること（共通理解）

（まごころ通信第23号参照）

の2つです。

このような進め方によって、組織での共有理解が図られ、仲間との知恵の出し合いにより創発的な考えが生まれ、英知を結集した良い企画案ができるということにつながります。

（まごころ通信 第23号参照）

『スピード感』を持って仕事をするとは、

- 1 相手の信頼を得る
- 2 質の高い良い仕事ができる
- 3 組織人として個の成長につながり、また組織の力が高まり職場に活気・うねりが生じる

（まごころ通信 第34号参照）

ことであり、ひいては社会全体の発展、より良い地域社会を創ることにもつながるものなのです。

（まごころ通信 第14・15号参照）



小田原市教育委員会教育長

柳下正祐



おだわらっ子見守りサービス

小学校全校に導入されました！

「おだわらっ子見守りサービス」は、専用端末を持ち歩く児童が、街中の「見守りスポット」を通過すると、その位置情報などが記録され、万が一の方不明などが発生した際の捜索活動に役立てることができるサービスです。

令和7年10月、小学校全校への導入が完了しました！

未登録の方は、ぜひこの機会にお申込みください。



無料で利用できます！
お守りを持ち歩くだけなので
とっても手軽です。

サービスのイメージ図

見守りスポットは全国に約8万箇所あります！



～大人の皆様へ～

「見守り人」を募集しています



「見守り人」アプリにご登録いただくと、
スマホが見守りスポットとなり、
すれ違う児童の位置情報が記録されます。

特別な操作は必要ありません。

いつもの通勤や散歩の最中に、見守り活動にご協力ください。



↑インストールはこちら↑

